令和5年度　学校評価総括表　　香芝市立香芝北中学校

教育目標	県教委・市教委の教育方針を踏まえ、予測困難な時代をたくましく生き抜き、よりよい社会の創り手となる生徒の育成を目指す。	総合評価
運営方針	「笑顔と元気」に満ちあふれ、保護者や 地域から応援してもらえる学校	B
前年度の成果と課題	本年度の重点目標	
・グランドデザインのもと、学校行事や部活動に積極的に参加している。 ・わかりやすい授業づくりを進める。	・「笑顔と元気」をグランドデザインのキャッチフレーズに掲げ、何事にも進んで取り組む生徒を育成する。 ・わかりやすい授業、興味関心を高める授業づくりに向け、研修を充実させ、指導力の向上に努める。 ・支援を必要とする生徒への対応について、全教職員の共通理解のもと、それぞれの立場で進めていく。	

教育活動や分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等	評価		成果と課題（評価の分析）	課題の改善策等	学校関係者評価
教育目標 教育方針	学校の教育目標（グランドデザイン）の内容を知っている。	学校通信を通じて教育目標の具現化を行い生徒・保護者に周知を図る。	B	B	学校通信を通じて周知したがまだまだ浸透していない。	グランドデザインの視覚化や三者懇談会やオープンスクールを活用し、周知に努めていきたい。	グランドデザインが明確に示されているが、生徒・保護者に対しての認知度が今年度も低かった。学校内だけでなく、公共機関や校区内店舗に掲示する等、視覚化することがあっても良い。命に関わる教育は取組の成果が表れている。
	学校は人権や命の大切さについての学習に取り組んでいる。	人権教育推進計画及び道徳教育推進計画に基づいて取組を進める。	A		組織的に指導内容が検討され、取組が行われていることで生徒の学習に対する意識も向上した。	これまで通り、心響部を中心に教材を選定し、人権教育と道徳教育を両立させながら、命の教育を積極的に行っていく。	
教科学習	生徒たちは授業を積極的に受け、内容をほぼ理解できている。	新学習指導要領に基づき3つの資質を育成するための授業づくりに取り組む。	B	B	生徒の80％弱が肯定的な評価をしているが、保護者の評価とややギャップがある。引き続き学校としての授業改善に取り組みたい。	生徒一人一人の定着度を可能な限り把握し、声掛けをしたり、課題を出したりしながら、個に優しい学習支援の方法を考える。	何より生徒が真面目かつ熱心で主体的に授業を受けようとする雰囲気が感じられる。また先生方はICT機器の活用を取り入れた授業を行ったり、生徒とのやりとりを通して考えさせる授業があったのは良かった。授業のやり方やICTの使い方が教員によって差が出ないように進めてほしい。またさらにわかりやすい授業づくりに努め、ひとりでも多くの生徒が楽しく登校できるようにしてほしい。
	先生はわかりやすく授業を行ってくれている。	ＩＣＴ機器を効果的に活用し、生徒の理解の深化を促す。	B		90％近くの生徒が肯定的な評価をしており、保護者の否定的な回答も昨年に比べて減少している。	お互いの授業を参観しあう取組やＩＣＴ支援員による講習等を通して授業改善をさらに活性化していきたい。	
	生徒たちは楽しく学校生活を送れている。	保護者との連携を密にしながら、一人一人の生徒とていねいに関わる。	A		肯定的な評価が大半であるものの、生徒の10％弱、保護者の20％弱が否定的な評価をしていることを重く受け止めたい。	これまで以上に生徒一人ひとりを大切にし、寄り添う指導を徹底し、否定的な回答をした生徒にしっかり目を向けながら教育活動にあたる。	
特別活動	生徒たちは学校行事や係活動、委員会活動に積極的に取り組んでいる。	各自が活躍できるような学校行事や係・委員会活動になるように仕掛けを工夫する。	A	A	コロナ禍の中、体育大会や音楽会を行うことができた。各委員会も生徒が主体的に動く機会を作っている。約90％の生徒、80％を越えるの保護者が肯定的な評価をしている。	委員会活動において新しい発想を取り入れ、生徒がより活躍できる機会を意図的に作ることがでいている。	体育大会で生徒は思う存分やっても良いという安心感の中、自分の役割を十分楽しみながら果たしていた。ボランティアということばは使わず、「人の役に立つことをする」「人の役に立って嬉しいと感じる」という持って行き方をすべきではないか。校区自治会の行事と一体化するなど共に取り組める機会を作るのも大切である。
	生徒たちは部活動に積極的に参加している。	生徒が活動を通して自己実現できるなるような部活動の運営を行う。	A		生徒・保護者とも約80％が肯定的な評価をしている。また教員も協力しあいながら、熱心で情熱的な指導を行っている。	今後の生徒数減による教員数の減少を鑑み、また部活動の地域移行や教員の働き方改革等、部活動を取り巻く環境も変化に合わせながら、可能な限り活動を充実させていく。	
生徒指導	生徒たちは学校の決まりやマナーをきちんと守っている。	学校生活全般において規範意識を培う指導を行う。	A	B	95％以上の生徒、90％弱保護者が肯定的な評価をしている。	校内においては一定規範意識を高く持ちながら過ごしているが、後登下校時のマナー向上など課題はある。家庭や地域とも連携し進めていきたい。	生徒が現在のように落ち着いて凛とした雰囲気で学べているのは、教職員が一丸となって日常の取組を進めている成果だと考える。あいさつをすればほとんどの生徒が返してくれるし、自分からあいさつをする生徒も増えている。生徒の自主性に配慮された取組がとても多く、これからも生徒一人ひとりが輝く場、認められる場をできるだけたくさん作っていただき、自己肯定感を高めていただきたい。不登校傾向の生徒はもちろん保護者に寄り添える活動やアドバイスができる組織であってほしい。
	学校は生徒の自主性や主体性を育む取組を積極的に行っている。	学校生活全般において自主性・主体性を育む取組を行う。	A		生徒の85％が肯定的な評価をしているが、保護者では70％を少し越えるにとどまっている。	委員会活動の活性化や人の役に立つ行いの推奨など、生徒の自己有用感や自己有用感を高める取組をいっそう増やして行きたい。	
	学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	学校生活全般においていじめ未然防止の取組といじめ見逃しゼロを目指した取組を行う。	B		昨年度より生徒の肯定的な評価が増加したものの、生徒の17％、保護者の22％が否定的な評価であり、さらに学校としての取組を進める必要がある。	生徒について教員間での情報交換を活発に行い、些細なことも見逃さないような体制づくりを行う。	
	先生は生徒の悩みや不安を受け止めて相談にのってくれている。	生徒一人ひとりにていねいに向き合い、個の特性に応じたきめ細やかな指導を目指す。	B		昨年度より肯定的な保護者の肯定的な回答が増加した。教職員も肯定的にとらえており、より良い関係性が構築されてきている。	教員としてカウンセラー的な側面とコーチ的な側面の両方が必要である。日常的に生徒に目を配りながらタイムリーに声掛けしていくことが大切である。	
	先生は生徒のことを思いきちんと叱咤激励をしてくれている。		B		生徒の86％が肯定的な評価をしており、保護者の肯定的な回答が増加していることを喜ぶと同時に教職員は期待を裏切らないように一層取り組みたい。		
環境整備	生徒は日々しっかりと清掃している。	生徒に清掃の重要性を感じさせた上で、教職員全員で清掃指導にあたる。	B	B	90％以上の生徒が肯定的な評価をしており、教員からの評価も高い。	清掃の意味をしっかり考えさせ、日常の清掃活動をさらに充実させていきたい。	学校コミュニティ協議会とも連携し、環境美化の取組を行ってほしい。地域の人との交流の場にもなり得る。
	学校は生徒が学習しやすい環境を整える努力をしている。	定期的に破損個所をチェックし、不備があれば可能な限り整備にあたる。	A		生徒・保護者ともに約80％が肯定的な評価をしており、概ね良好と言える。	物理的な環境整備だけでなく、生徒が心理的に安心して学べる環境整備を行う。	
地域・保護者との連携	学校は「便り」「ＨＰ」等により積極的な情報発信を行っている。	保護者には学校通信を通じて情報を発信し、地域の方には自治会の回覧板に学校通信を載せてもらい、関心を持っていただくきっかけとする。	A	A	約90％の保護者が肯定的な回答をしており、取組が実を結んでいると考えたい。	アカウンタビリティの視点からも学校からの情報発信はたいへん重要である。さらにHPの活性化も含めた取組を行っていきたい。	学校通信『北風と太陽』は学校の様子が非常にわかりやすく、タイムリーに発行いただいている。また学校長の熱が伝わってくるもので、チーム学校の旗印となっている。今後も引き続き発行をお願いする。自治会の回覧板に載せる取組は継続していきたい。
	ＰＴＡ活動や学校コミュニティ協議会の活動を積極的に行っている。	いろんな機会を通じて、学校に関わってもらい、ともに学校づくりを行う。	A		昨年同様、コミュニティ協議会が積極的に学校教育活動に参画してくださった。	ボランティアの数が不足している。学校が支援を受けることに終始しているので、学校から地域に貢献できる企画を進める。	

※評価はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄの4段階